

平成 29 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

横浜市新山下地域ケアプラザ

■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

(1) 地域の現状と課題について

第2地区は国際色豊かな文化が息づき、外国人も多く暮らしており、異世代間の交流も盛んで、夏祭りなどでは子ども達も活躍している。活動拠点の建て替えにより、ふれあいサロンにおける高齢者の見守りや、健康づくりの活動も、これまで以上に活発に行われている。

第4地区北部は、坂の多い丘陵地から海辺の埋立地へと東西に広がり、昔ながらの下町の風情が残る住宅街と集合住宅が立ち並ぶ地域である。新しい活動拠点の運用もはじまり、子育てサロンの充実や高齢者食事会等、世代の垣根を越えた見守り活動が盛んに行われ、介護予防の観点からの健康づくりの活動にも積極的に取り組まれている。

ゴミ出し問題、次世代の担い手育成、子どもたちや中高年者・高齢者と地域とのつながり作りなど、今後に向けてさまざまな話し合いが進められており、地域ケアプラザとしてもこうした状況の把握に努め、地区の特性に応じた支援に取り組んだ。

(2) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

住民の方々にケアプラザを身近に感じて頂けるように、広報紙の充実はもちろん地域で行われている集いや行事に参加、出前講座や出張相談を開催した。地域から開催依頼を頂けるように、「出前講座メニュー」の作成を行い、介護保険の説明などの開催に結びつけた。「見守りキーホルダーの出張登録会」についても試行的に取り組んだ。リーフレットを新たに作成し、分かりやすいとの声を頂くことができた。

地域の方とのつながりを大事に、その結果として、地域特性に応じたニーズの発見、把握につなげることができた。

子育てに関しては歯みがき講座の開催、障害分野に関しては障害児余暇支援、精神保健福祉講座の開催を通して、地域住民や地域の支援者に対し情報提供を行った。

(3) 各事業の連携

月2回の5職種会議により、各部門における取組の進捗を共有することで、互いの専門性を理解した上で、協働で進める事業は円滑な連携ができた。

コーディネーターと包括が連携することで、各々の専門性から地域に発信する機会が増え、各々のネットワークからの声掛けにより、参加者の増加にもつながった。

月1回チーム会議では主に事業の報告、地域情報の発信を行い、区役所、区社協の取組の進捗を把握し、地域課題解決に向けた取組みに努めた。

(4) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

各部門に適切な人員配置を行った。職員の資質向上を図るために、法人の目標支援制度を通じた個別目標の設定や管理者との面接を実施するほか、年間育成（研修）計画を作成し、目的意識をもった職員育成に取り組んだ。また、こうした研修で得た知識と情報は事例検討を交え、研修参加者による報告機会を設けるなど、各々適正な業務遂行ができるよう個別の能力に応じた人材育成に取り組んだ。

(5) 地域福祉保健のネットワーク構築

連合町内会、地区社協などで開催する各種会合・行事の情報収集のために地域に積極的に出向き、ケアプラザの機能の周知に努めるほか、地域を会場とする地域ケア会議に加賀町警察に出席して頂くなど、多職種の視点を活かした地域課題の把握とネットワークの構築に取り組んだ。

スポーツセンター職員を対象とした「認知症サポーター養成講座」開催、ケアプラザ5職種職員とみはらしポンテ基幹相談支援センター職員との間でお互いの業務を理解するための連絡会の開催、生活支援センター所長による支援者を対象とした精神保健福祉講座の開催等、近隣施設とのネットワーク構築にも力を入れて取り組んだ。

(6) 区行政との協働

第3期中区地域福祉保健計画「中なかいいネ！」の実現に向け、各推進会議への運営支援等、計画推進に向けた取り組みに協力した。区事業と自主事業との連動については、認知症普及啓発について取り組むことができ、来年度以降の足がかりをつくることができた。支援チーム会議による定期的な話し合いにより地域課題解決に向けてチーム全体で取り組むことができた。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

子育て支援事業として、今年度初めて「歯磨き講座」を実施し、親子の歯磨きに関する疑問の解決に大きく結びつけることができ、地域の歯科との連携も図ることができた。また、「子育て支援拠点のんびりんこ」「中スポーツセンター」と共催で、子育て支援施設を廻るツアーやケアプラザの「子育てサロン」の紹介を行い、父子対象で行なったので、父親の地域参加にもつながった。

8月には、小学生対象の「障がい児余暇支援事業」を行ない、プログラムを通して子どもの余暇活動やご協力いただいたボランティアの方々との交流・障がい理解につなげた。

世代の垣根を越えた住民交流の場として、「サロンしんやま」を10月から展開し、多世代交流を実現させた。

学校との連携については、「認知症キッズサポーター養成講座」を小学校のはまっ子スクールで実施し、キャラバンメイトである地域の方と小学生のつながりができた。認知症を知ってもらい、将来的に高齢者を支えるしくみ・関係作りにつなげた。

「こだわり味噌作り講座」では子どもから高齢者まで、2日間で91名が参加した。11月の花植えイベントでは、互いに花植え作業をすることで、「今までは、通りすがりの関係であったのが、あいさつし合える関係性になりました」と参加者から感想が寄せられ、良い発展効果があった。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

福祉保健活動団体等に対して貸館など快適な環境を提供できるよう、館内美化や貸出物品の整備など、快適な利用環境を提供するように努めた。貸館で使用する収納ボックスについても、全団体、共通のものを使用し設置することで、ホール全体の統一感を保ち、分かりやすく、利用しやすい配置を維持した。また季節に合わせた模様替えを行ない、館内に限らず、エントランスや外観など利用する方が入りやすい環境整備に努めた。照明がLEDとなり、より一層明るい雰囲気になった。

貸館等に関しては、会合出席時や広報紙、ホームページを通じて情報提供を行い、福祉保健活動団体等の新規利用促進を推進するとともにケアプラザの周知に努めた。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

ボランティアセンター等関係機関との連携や活動情報の提供により、新規ボランティアの拡充に努めた。結果、デイサービスや余暇支援のボランティア活動の登録につながることができた。(29年度12月までの新規登録者数は12名) ケアプラザ内における活動場所の有効活用に努め、ボランティア支援の充実を図った。

活動者に対しては、広報紙や口頭での呼びかけで、無理のない継続した活動へつながる環境づくりに努めるなど、地域の担い手育成を意識した支援を行った。また、花植えイベントでは「園芸ボランティア」に講師役になってもらい、活躍の場を増やす後方支援を行なった。

生活支援コーディネーターと連携し、ボランティア育成・発掘のための講座として、「よこはまシニアボランティアポイントカード登録研修会」を2月に行ない25名の参加があった。よこはまシニアボランティアポイントの周知を一つのきっかけとしてボランティア活動への関心を促すほか、ボランティア同士のネットワークの充実と情報共有・情報発信を目的としたボランティア交流会を3月に開催。ボランティアの活躍の場として、交流会ではボランティア主体のプログラム(絵手紙披露)を実施した。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

地域の社会資源を把握するために地域包括支援センター・生活支援コーディネーターと連携し、これまでつながりのある各種地域会合や行事への参加・働きかけを行うとともに、関連する地域活動・地域行事へも新たに足を運び、福祉保健活動や会場利用団体に関する情報収集に取り組んだ。集積した情報は広報紙「広報しんやま」(年間6回)の発行や広報しんやま「ブログ版」での掲載を活用するほか、上記で把握した地域の福祉保健活動などの紹介も見やすさを意識した館内掲示を通し、地域に提供・還元した。広報紙に関しては、これまで“A3サイズ二つ折り両面”の紙面のみだったが、掲示板に貼っても重要な情報が一目で分かるように、A4サイズ片面の紙面も作成し、マンション等に掲示するようにした。結果、そのマンションからの講座参加者が増える効果があった。

ボランティアコーナーについては、閲覧資料や掲示の充実を図り、情報の「見える化」を意識した。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

所内他職種との連携により、個別支援から明らかになるニーズや既存の資源の把握を行った。認知症サポーター養成講座や民生委員とケアマネジャーの交流会など見守り体制の推進にも他職種連携にて取り組んだ。コグニサイズリーダー養成講座受講者に地域のサロンで実践していただくなど、地域に繋げることで担い手の地域参加の推進を図った。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

今まで関係性が薄かった老人会に出向きケアプラザの役割と共に生活支援体制整備事業の取組みについて周知を行った。同時に企業との連携を視野に入れ、近隣の大型スーパーの店長に話を伺うなどの情報収集を行った。

地域支援チーム間での連携により情報を集約しアセスメントシートを作成した。

前年度に引き続き、集いの場や生活支援の情報をインタビューシートにまとめ、それに加え民生委員や居宅ケアマネジャーとも情報交換をし、情報の充実化を図った。

(3) 連携・協議の場

老人会会長や民生委員会会長など地域のキーパーソンと、高齢者の生活についての現状と課題の情報収集を行った。外出しない高齢者に対するアンケート調査、民生委員に対する家事支援ニーズ調査などを行い、それらの実施にあたって地域の方々と協議をする場を設けた。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

広域での行事や各ケアプラザの取組み等を情報交換シートの他に、月1回の生活支援コーディネーター連絡会にて区、区社協（1層生活支援コーディネーター）、区内6地域ケアプラザ（2層生活支援コーディネーター）間で情報共有を行った。連絡会での取組みの一つとして、生活支援コーディネーターを地域の方に知っていただくための周知用チラシを作成し、ハローよこはまにて配布した。

また、ケアプラザ圏域を超える範囲においての生活支援サービス普及のために隣接するケアプラザの生活支援コーディネーターや他圏域の地域住民を交えた協議の場づくりに取り組んだ。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

地域で利用できる社会資源について生活支援コーディネーターを中心に情報収集し、リスト化やマップ作りに取り組み活用できるようにした。

連合町内会、地区社協等で開催する各種会合・行事等へ積極的に参加し、地域包括支援センターの機能周知に努めた。また、地域ケア会議を5月、10月、2月に実施し、多職種の視点を活かした地域課題の把握とネットワークの構築に努めた。地域での見守り体制の強化が図れた反面、地域での見守りの限界にも直面するなど地域課題とその取組みについて関係機関と共有することができた。その後警察との連携がとりやすくなり、病院と介護保険サービス事業者との連携の橋渡しとしての地域包括支援センターの役割を再認識しネットワークの構築に活かすことができた。

地域事業所への支援の一環として、生活支援センターとの共催事業「こころの健康相談室」を企画、調整した。また「精神保健福祉講座」を実施した。

② 実態把握

区行政からの各種統計資料等を通し担当圏域の情報収集、地区評価に努め、得た情報をもとに、連合町内会、自治町内会などで開催する会合や行事へ積極的に出向き、参加を通じて個別課題や地域ニーズの発見・把握に努めた。解決に向け必要な情報提供ができるよう生活支援コーディネーターとも連携を図り、地域包括支援センターが把握した高齢者の個別ニーズを生活支援コーディネーターに情報提供し、解決のためのインフォーマルサービスの把握に努めた。

③ 総合相談支援

個別相談に的確に対応するために、包括専門職間でのケース共有・支援方針等の共有に努めた。また、相談者に不利益が生じないようワンストップサービスを心がけた。

地域の身近な相談窓口として地域包括支援センターの周知が図れるよう、積極的に地域会合等にも出向き、広報活動を行った。民生委員の要請により、介護保険の説明会を地域に出向き行った。それにより民生委員から気になるケースの相談が増え、個別課題の把握から支援につながる機会が増加した。早期の課題解決に向け、必要時には区行政や医療機関とも連携を図り支援に取り組んだ。相談内容に応じ、介護保険サービスのみではなく、地域資源や一般介護予防事業の情報提供を行った。さらに継続的に支援が必要なケースや複雑な課題のあるケースに対しては「ケースカンファレンス」を開催し、支援方針を共有し対応に努めた。

適切なサービス・機関に繋いだ後も相談内容に応じて継続的に関わり、関係機関への後方支援や家族に対する適切な情報提供・支援に努めた。

個別の相談内容を「相談受付名簿」に集積し、年度末に内容の分析を行うことで、地域課題の「見える化」に取り組んだ。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

成年後見制度に関する情報発信を目的に、「わくわく老後 らくらく介護相続」と個別相談会を実施し、任意後見制度を始めとした権利擁護のための制度の普及啓発に努めた。29年度新たに、老人会の見守り班を対象とした出張講座「成年後見制度について」を実施し、説明や質疑応答を通じて、地域の担い手に対して制度の普及啓発を行った。12件の成年後見に関する相談に対応し、そのうち1件でケアマネジャーと協力し、本人申し立ての支援を行い、実際に申し立てを行った。

② 高齢者虐待への対応

地域住民や民生委員、介護保険サービス事業所などから、虐待を疑わせるケースの情報提供を受ける機会も増え、その都度緊急性や優先性を判断し支援出来るよう、早期に「高齢者虐待相談受付票」を用いながら区行政と情報共有・支援方針の明確化に努めた。また「高齢者虐待防止指針」を活用しながら迅速かつ適切な支援に努めた。

必要時は医療機関も交えネットワークミーティングを開催し、定期的に情報交換・支援の方向性の確認を行った。また介護者の負担が軽減することで虐待防止につながるよう介護者のつどいを定期的実施した。

③ 認知症

認知症事業検討会で中区全体として取り組んでいる介護者支援事業（臨床心理士相談、介護者のつどい）、認知症初期の方への支援（サポート医との連携）、キャラバンメイト支援等の事業を継続、発展させ、認知症に関する普及啓発に努めた。必要に応じて臨床心理士相談や物忘れ相談の紹介・同行し、課題の把握や支援につなげた。また介護者のつどいを定期的実施し、家族の支援に努め、10月から立ち上げた「サロンしんやま」を認知症の方や家族が安心して過ごせる場としても提供した。

個別相談や介護保険サービス事業所からの相談の中で、必要な方には「中区徘徊高齢者等探してネットワーク」への登録を働きかけ、地域会合等にて仕組みの周知に努めた。

さらに認知症の正しい理解の促進のため地域の認知症キャラバンメイトと協働し、北方小学校はまっこふれあいスクール及び中スポーツセンターにて認知症サポーター養成講座を実施した。横浜中央病院で行われた認知症サポーター養成講座には地域アブラザ職員が共催メンバーとして参加、キャラバンメイト連絡会を通し、キャラバン

メイトとの交流が図れ、今後のサポーター養成講座での協力体制を広げていくことができた。

その他、介護予防事業の継続に加え、地域にある「認知症カフェ」の周知などをおして認知症があってもその人らしく生活できる地域づくりの推進に努めた。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

担当圏域の地域資源について、各町内会、自治会、老人会、住民の集いの場等において生活支援コーディネーター等と共に情報収集、地域データの収集を行い、各地区の特性を理解した上で、地域住民や関係機関との連携に役立てた。

地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みとして、区内の居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーの実態把握に努め、連絡会を開催した。多職種連携による課題把握を目的とした地域ケア会議を3回開催し、地域課題に取り組む上で新たな関係者を増やすことができた。その他、民児協への参加や民生委員とケアマネジャーの交流会を3回開催し、民生委員とケアマネジャーの役割や地域特性について情報交換し、地域住民を支援する輪を広げることができた。「精神保健福祉講座」では対象を地域の支援事業者向けに実施し、生活支援センターとの顔の見える関係を築く機会となった。

② 医療・介護の連携推進支援

医療と介護が連携し、地域の高齢者を包括的にケアしていかれるように、中区在宅医療相談室をはじめ、みなと赤十字病院、横浜中央病院等エリア内外の医療機関の相談室や居宅介護支援事業所との連携推進に努めた。地域ケア会議にみなと赤十字病院医療相談室に参加を求め、地域課題の共有や退院時の医療・介護の連携について情報共有を行った。横浜中央病院とは認知症サポーター養成講座をおして顔の見える関係作りをし、連携推進に努めることができた。居宅介護支援事業所とは事例検討会を行い、連携推進に努めた。施設協力医による「おしえてドクター」を2回実施し、地域住民だけでなく支援事業者も参加を呼びかけたことにより連携を図りやすくする機会となった。地域から「広報しんやま」をより広く医療機関に置いてみてはとの提案があり、地域活動交流コーディネーターや生活支援コーディネーターと検討行った。

③ ケアマネジャー支援

区内の地域包括支援センター協働で、就労3年未満のケアマネジャーを対象に新任・就労予定ケアマネジャー実習を実施した。担当地域で活躍しているケアマネジャーに対し、『かいごのWa!なか』と連携し、専門家を招いた勉強会の開催や各種研修を通して、「自立支援」の視点に基づいたケアマネジメントの実践を支援した。また、事業所の主任ケアマネジャーとの意見交換会を通じた支援にも取り組んだ。

ケアマネジャーからの支援困難事例や緊急対応を含めた個別の相談対応に関しては、区行政や地域包括支援センターの他の職種、地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターと共有し支援につなげた。

地域ケア会議の参加や民生委員・ケアマネジャー交流会・事例検討会を通して他職種の連携支援やケアマネジメントのスキルアップに向け支援した。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

第2地区、第4地区北部が各々特性に応じた地域包括支援ネットワークを構築していくため地域ケア会議を3回開催し、多職種協働を活かした支援に取り組んだ。検討課題の内容に応じ、行政、ケアマネジャー等の介護保険事業者、区社協、医療従事者、地域住民、専門職等に働きかけを行い、会議を重ねることにより地域課題の実態把握に努めた。実施された地域ケア会議をもとに共通する課題を見出し、地域と共に具体的な取り組みが実現できるよう努め、その結果、加賀町警察との連携も強固なものになった。具体的にはリフォーム詐欺に関する相談、警察が把握している支援が必要な高齢者の情報共有であり、介護保険サービスにつなげることもできた。また、元町地区ではサロンを実施するなど高齢者の見守り体制を強化する動きが住民から主体的にみられるようになるなど成果が見られた。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

利用者とその家族の意思を尊重しながら、個々のニーズや心身の状況とその置かれている環境に応じたサービス計画の作成に努めた。介護予防及び介護予防ケアマネジメントに対する正しい理解と知識を得ることが出来るよう、作成した計画に対し十分な説明を行い、サービスに依存することのない、自立した日常生活を営むことが出来るよう支援した。特に生活支援コーディネーターが把握しているインフォーマルサービスや介護予防事業、自主事業等の情報提供も積極的に行い、自立支援に努めた。

委託先のケアマネジャーにも地域の同様の情報提供を行い、自立支援のための適切なマネジメントができるよう支援した。民生委員とケアマネジャーの交流会で配食サービスの業者を招き、ケアマネジャーとサービスの実態について情報共有を行った。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

介護予防に加え、生きがいくくり・社会貢献を兼ねた「ぞうきんサロン」、高齢者の運動機会の維持を目的とした「楽トレ倶楽部」を継続で実施した。認知症予防や運動に対するニーズは高く、「楽トレ倶楽部」の参加者は増加している。地域住民、要支援者に参加を呼びかけたことにより参加者の増加につながった。口腔ケア講座と栄養講座は住民に身近な町内会館で、出前講座として実施した。ケアプラザを会場とした「サロンしんやま」でも栄養講座を実施することができた。地域の高齢者が抵抗なく、気軽に取り組むことができるよう、講師とも情報交換を行い実施に結びつけることができた。

脳トレリーダー養成講座を受講した地域住民にも活躍の場を提供し、介護予防活動支援に取り組む人材の育成に努めた。

自主化している元気づくりステーション「サロン・ど・フット」においては、活動継続のための後方支援を行った。新たに誕生した「健康づくりの会」の活動が軌道に乗るよう、区高齢・障害支援課とも連携しながら支援を行った。

5 その他

--

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

7 施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

開所25年が経ち設備の老朽化に対し、不具合が生じないように保守管理に努めた。照明設備は横浜市事業によりLED化されたため相談者及び貸館利用者にとってより快適な環境を整えることができた。

(2) 効率的な運営への取組について

長寿命化対策を適切なタイミングでおこない、利用者へのサービスの向上と環境負荷の低減且つ持続的なサービス提供を実現した。複合施設である新山下ホームとは、同一法人である利点を生かし、十分な協議を行った上で施設・設備に関し保守管理を一体的に実施した。

(3) 苦情受付体制について

要望・苦情相談への対応では、館内へのご意見箱の設置、法人ホームページでの専用フォーム設置、部門ごとに利用者アンケートを年一回実施し、多様なニーズの改善、対応を行った。明らかとなった結果はホームページ上で公表し、また、実務と研修を積み重ねた担当者を窓口配置し、迅速な対応を図るとともに、所長が責任者となり不在時にも常に連絡のとれる体制を構築した。相談のあった要望・苦情に対し、可能な限り所内での検討を重ね、十分に精査した上で、対応可否を経過を含めて対象者に返した。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

防災に関しては、横浜市との福祉避難所として協定を締結し、有事の際は区災害対策本部からの開設要請に基づき、要援護者の受け入れを積極的に行うことを職員会議で周知した。また、災害に備え年2回の消防訓練を行い、実際に防災機器などに触れる機会を設けた。防火管理業務に必要な知識、技術を高めるための教育を行った。あわせて、新山下3丁目15共同ビル防火対象物全体（ケアプラザ、特養ホーム、スポーツセンター、UR住宅）で総括防火管理計画を策定し、合同訓練に参加した。複合施設としての管理業務を総合的に推進することで、必要な情報が迅速かつ伝達できる体制の確立に努めた。

防犯対策では、職員による昼間帯の巡回を適宜行うと同時に、新山下ホームと連携した夜間機械警備による管理システムの効果的な活用や夜警の巡回警備をおこない、防犯に備えた。

(5) 事故防止への取組について

事故防止では、事故防止のための規則、マニュアルを整備し、「人は過ちを犯すもの」であることを前提に、事故の予防策と危機管理の周知徹底を図った。職員一人ひとりが事故防止に取り組むことはもちろん、事故が起きないように仕組みを組織としてつくりあげるため、業務上の過ちなどから起きてしまった事故やヒヤリハット事例を生きた教材として活かし、万一事故が発生してもこれらを未然に防止あるいは最小限に止める体制づくりに努めた。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

個人情報保護の適切な管理では、法人の規定及び横浜市の条例に則り、研修を実施し、職員意識の高揚を図るとともに、個人情報の適切な取扱への誓約を全職員で行った。また、他施設を含め起きてしまった事故は、職場で共有すべき貴重な教材と捉え、同様の事故を起こさないように自施設を想定した取り組みを行った。

(7) 情報公開への取組について

館内掲示をはじめホームページ及び広報紙、専用ブログ上で積極的に開示した。具体的には、地域行事の参加報告、自主事業報告、年間事業の計画・報告、収支状況、利用者アンケートの結果、苦情対応を公表し、ご意見箱やホームページ上のフォームにより質問、意見、要望が利用者から出しやすいように努めた。

(8) 人権啓発への取組について

地域特性として、国際色豊かな反面、多文化理解・交流支援の実施など、それぞれの文化の違いを考慮した支援、高齢者支援に特化せず、乳幼児のいる世帯、児童、障害児・者を含め、世代の垣根を越えた支援を行っていく上で、住民同士が理解を深められる機会を作れるように努めた。支援を行っていく上で職場内人権研修も実施した。

(9) 環境等への配慮及び取組について

高熱水費削減のため、館内に節電、節水のPRポスターを掲示し、施設利用者からの理解と協力を得られるよう努めた。職員一人一人が環境問題への意識を持ち、職員が率先して環境に配慮した取組みができるよう努めた。施設内で排出されたものは再利用する資源と考え、ゴミの減量とリサイクルに取り組んだ。その他、職員の移動手段は、可能な限り徒歩か自転車を基本とし、環境に配慮した省エネルギー化に努めた。

【介護保険事業】

●指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

保健師等 1名（常勤兼務）
主任ケアマネジャー 1名（常勤兼務）
社会福祉士 1名（常勤兼務）

《目標に対する成果等》

利用者とその家族の意思を尊重しながら、個々のニーズや心身の状況とその置かれている環境に応じたサービス計画の作成に努めた。介護予防及び介護予防ケアマネジメントに対する正しい理解と知識を得ることが出来るように、作成した計画に対し十分な説明を行い、サービスに依存することのない、自立した日常生活を営むことが出来るよう支援を行った。特に生活支援コーディネーターが把握しているインフォーマルサービスや介護予防事業、自主事業等の情報提供も積極的に行い、自立支援に努めた。また委託先のケアマネジャーにも地域の同様の情報提供を行い、自立支援のための適切なマネジメントができるよう支援した。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

●担当者が通常のサービス実施地域を超える地域に訪問、出張する必要がある場合には、その交通費（実費）の負担をお願いすることがある。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

●委託している利用者の介護予防ケアマネジメントが適切に行われるように、サービス担当者会議への積極的な参加と介護予防ケアプランの定期的な確認を行った。更にケアマネジャーの介護予防ケアマネジメント力の向上を目指し、区内包括支援センター合同で介護予防支援従事者研修（実践編）を行った。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
112	111	114	116	123	123
10月	11月	12月	1月	2月	3月
131	137	134	138	137	139

●居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者 1名（常勤兼務）
 介護支援専門員 3名（常勤3名）

《目標に対する成果等》

利用者の人格を尊重し、自立と在宅生活の維持向上を目指したケアプランの作成を行った。積極的に各種研修等へ参加し、専門職としてのスキルアップを図り、情報交換による最新の情報を活用することで、利用者・家族の意向が生かされたケアプランの作成を行った。ケアプランの実施に当たっては法令を遵守し、訪問・モニタリング・見直しを適宜行い適正にサービスが提供されるように連絡調整を行った。介護保険サービス以外の必要なサービスや講座・催し物についても情報提供し、生活の質を高める働きかけを行った。

目標件数（107件）には達しなかったが、10月から特定事業所加算Ⅲの算定を開始し、算定条件を遵守した運営を行った。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 通常の事業実施地域を超えて行う場合は、その交通費（実費）を請求。
- 利用者の求めに応じて記録等の複写物を提供した場合はその実費を請求。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

利用者と家族の立場に立った迅速且つきめ細かい支援に努めた。地域福祉の拠点であるケアプラザの居宅介護支援事業所として、地域包括支援センター併設の強みを生かし、関係機関・地域の支援ネットワークと綿密に連絡をとりながら、利用者・介護者支援に取り組んだ。結果として介護サービスにつながらないケースに関しても、包括専門職との連携を図り、利用者の不利益とならないよう支援を行った。また、事業所内マニュアルを指針に業務の効率化に取り組んだ。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
95	99	104	92	95	97
10月	11月	12月	1月	2月	3月
99	99	104	96	95	97

平成29年度「新山下地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)〈地域活動〉

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	16,629,001	85,186	16,543,815	16,543,815	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当 事業	0		0	105,700	105,700	
自主事業収入			0	0	0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	8,575	8,575	
印刷代	0		0	8,575	8,575	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他(指定管理料充当)	0		0	0	0	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	0		0	0	0	
その他(提案時控除 法人負担分)	0		0	0	0	
収入合計	16,629,001	85,186	16,543,815	16,658,090	114,275	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,490,757	0	10,490,757	10,423,160	67,597	
本俸	7,041,548		7,041,548	7,041,548	0	
社会保険料	820,307		820,307	820,307	0	
手当計	2,410,235		2,410,235	2,410,235	0	
健康診断費	26,672		26,672	26,672	0	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	103,746		103,746	103,746	0	
その他	88,249		88,249	20,652	67,597	
事務費	995,732	0	995,732	774,607	221,125	
旅費	0		0	0	0	
消耗品費	251,457		251,457	251,457	0	
会議賄い費	0		0	0	0	
印刷製本費	9,301		9,301	9,301	0	
通信費	180,101		180,101	180,101	0	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	261,090		261,090	261,090	0	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	2,063		2,063	2,063	0	
職員等研修費	2,252		2,252	2,252	0	
振込手数料	0		0	0	0	
リース料	0		0	0	0	
手数料	11,532		11,532	11,532	0	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	277,936		277,936	56,811	221,125	
事業費	505,597	0	505,597	569,495	63,898	
運営協議会経費	42,000		42,000	7,081	34,919	予算：指定額
指定管理料充当 事業	463,597		463,597	562,414	98,817	
管理費	3,797,654	0	3,797,654	3,451,812	2,463,331	
建築物・建築設備点検	65,829		65,829	42,120	23,709	予算：指定額
光熱水費	2,117,489	0	2,117,489	2,117,489	2,117,489	
電気料金	615,931		615,931		615,931	
ガス料金	266,270		266,270		266,270	内訳が一致していません
水道料金	1,235,288		1,235,288		1,235,288	
清掃費	230,600		230,600	230,600	0	
修繕費	474,000	0	474,000	412,523	61,477	予算：指定額
機械警備費	0		0	0	0	
設備保全費	575,911	0	575,911	575,911	0	
空調衛生設備保守	452,219		452,219	452,219	0	
消防設備保守	54,091		54,091	54,091	0	
電気設備保守	40,174		40,174	40,174	0	
害虫駆除清掃保守	26,232		26,232	26,232	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	3,195		3,195	3,195	0	
共益費	24,983		24,983	24,983	0	
その他	308,842		308,842	48,186	260,656	
公租公課	839,261	0	839,261	833,852	5,409	
事業所税			0		0	この列は入力しない
消費税	839,261		839,261	833,852	5,409	
印紙税			0		0	この列は入力しない
その他()			0		0	この列は入力しない
事務経費(計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分			0		0	この列は入力しない
当該施設分			0		0	この列は入力しない
二一ス対応費			0		0	この列は入力しない
支出合計	16,629,001	0	16,629,001	16,052,926	2,693,564	
差引	0	85,186	85,186	605,164	2,807,839	

自主事業費収入	463,597		463,597	0	463,597	予算：指定管理料に含む
自主事業費支出	463,597		463,597	562,414	98,817	
自主事業収支	0	0	0	562,414	562,414	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0		0	0	0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成29年度「新山下地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(特別会計)<包括・介護予防・生活支援体制整備>

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	22,860,000	16,343	22,843,657	22,843,657	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000	1,252,742	4,536,258	4,536,258	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	この列は入力しない
指定管理料充当事業(包括)	0		0	3,600	3,600	参加料
指定管理料充当事業(介護予防)	0		0	0	0	なし
指定管理料充当事業(生活支援)	0		0	3,600	3,600	参加料
自主事業収入			0		0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代	0		0	0	0	なし
自動販売機手数料	0		0	0	0	なし
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	なし
その他(指定管理充当分)	0		0	0	0	なし
その他(提案時控除 法人負担分)	5,901,243		5,901,243	5,901,243	0	
収入合計	34,701,243	1,269,085	33,432,158	33,439,358	7,200	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	31,765,353	0	31,765,353	27,996,008	3,769,345	
本俸	16,766,891		16,766,891	13,497,546	3,269,345	
社会保険料	4,040,800		4,040,800	3,540,806	499,994	
手当計	10,473,809		10,473,809	10,473,809	0	
健康診断費	27,011		27,011	27,011	0	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	416,178		416,178	416,178	0	
その他	40,664		40,664	40,658	6	
事務費	761,395	0	761,395	770,314	8,919	
旅費	8,073		8,073	8,073	0	
消耗品費	109,368		109,368	109,368	0	
会議賄い費	0		0	0	0	
印刷製本費	9,301		9,301	9,301	0	
通信費	169,188		169,188	169,188	0	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	87,286		87,286	87,286	0	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	2,063		2,063	2,063	0	
職員等研修費	103,827		103,827	103,827	0	
振込手数料	428		428	428	0	
リース料	5,000		5,000	5,000	0	
手数料	11,532		11,532	11,532	0	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	255,329		255,329	264,248	8,919	
事業費	1,165,000	0	1,165,000	1,073,989	91,011	
協力医	630,000		630,000	630,000	0	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	75,000		75,000	28,006	46,994	
指定管理料充当自主事業(介護予防)	151,000		151,000	112,045	38,955	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	303,938	5,062	予算:指定額
管理費	1,009,495	0	1,009,495	906,363	666,008	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算:指定額
光熱水費	562,876	0	562,876	562,876	562,876	
電気料金	163,729		163,729		163,729	
ガス料金	70,780		70,780		70,780	内訳が一致していません
水道料金	328,367		328,367		328,367	
清掃費	61,297		61,297	61,297	0	
修繕費	126,000		126,000	109,657	16,343	予算:指定額
機械警備費	0		0	0	0	
設備保全費	153,085	0	153,085	153,085	0	
空調衛生設備保守	120,209		120,209	120,209	0	
消防設備保守	14,378		14,378	14,378	0	
電気設備保守	10,679		10,679	10,679	0	
害虫駆除清掃保守	6,972		6,972	6,972	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	847		847	847	0	
共益費	6,640		6,640	6,640	0	
その他	99,597		99,597	12,808	86,789	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0		0	
消費税	0		0		0	
印紙税			0		0	
その他()			0		0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ズ対応費			0		0	
支出合計	34,701,243	0	34,701,243	30,746,674	4,517,445	
差引	0	1,269,085	1,269,085	2,692,684	4,524,645	

自主事業費収入	535,000			7,200		予算:指定管理料に含む
自主事業費支出	535,000			443,989		
自主事業収支	0			436,789		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0			0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出	0			0		使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0			0		

平成 29年度 地域ケアプラザ収支報告書<介護保険事業分>

施設名:新山下地域ケアプラザ

平成29年4月1日～平成30年3月31日
(単位:千円)

	科目	介護予防支援	居宅介護支援	通所介護	予防通所介護・ 第1号通所介護
収入	介護保険収入	3635	16084		
	その他	4755	413	0	0
	介護予防ケアマネジメント 費	4755	0		
	事業・負担金収入	0	0		
	受託収入	0	413		
		0	0		
		0	0		
	その他	0	0		
収入合計(A)		8390	16497	0	0
支出	人件費	0	19975		
	事務費	0	1301		
	事業費	0	6		
	管理費	0	0		
	その他	4489	0	0	0
	利用者負担軽減額	0	0		
	消費税	0	0		
	介護予防プラン委託料	1836	0		
	介護予防ケアマネジメントプラン 委託料	2653	0		
		0	0		
	その他	0	0		
支出合計(B)		4489	21282	0	0
収支 (A) - (B)		3901	-4785	0	0

説明

列追加の場合はこの部分に追加

列追加の場合はこの部分に追加

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同じように記載をしてください。

平成29年度 自主事業報告書

資料4-1

横浜市新山下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
親子のフリースペースおひさま	(目的) ケアプラザ内の公園をテーマに未就学児とその親を対象として、親子で集える場の提供を行った。 (内容) 出入り自由なフリースペースという形態で、親同士が自主的に子育てに関する情報交換をしたり、子ども同士のふれあいの場づくりを提供した。毎月原則3回(第1～第3金曜)実施しており、第2金曜は区主催の赤ちゃん学級「キャンディクラブ」と連動させることで、初めての方でも利用しやすい環境づくりを心掛けた。 「絵本の読み聞かせ会」や地域の障がい者施設のパン販売も行い、それを目的に見える親子も増えてきた。	毎月第1～3金曜日 (計34回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
フローリス	ボランティアグループ「フローリス」の支援。 花やまぐち事業への協力。 ボランティアグループ「フローリス」のガーデニングボランティア活動を支援した。	毎週火曜・金曜 (計92回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボランティア交流会	ケアプラザのボランティアとして共通認識を持って頂き交流。自己紹介や活動発表、ボランティアによる実演プログラム、団体2組による作品展示も実施。事前に写真撮影を行い、プロジェクター等で様子を終始流した。絵手紙サークルの代表者の方の指導による絵手紙体験を実施することで、学びや、参加者同士の交流のきっかけとなった。歓談タイムを設け、ボランティア同士、ケアプラザスタッフとの自由な交流を図った。	3/17 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
こだわり味噌作り	あらゆる世代を対象にした生きがい作りや体験学習といった目的と併せ、地域住民の気軽に参加できる世代間交流の場としても実施。また、ケアプラザの周知や地域活動の紹介、地域活動の参加のキッカケ作りとした。 老舗の糰店の方を講師に迎え、味噌作り体験を行った。大豆つぶしや糰混ぜなどを各テーブル交流しながら作った。大変人気の講座のため、今年は2日間の開催とした。	6/27、7/2 (計2回)

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
よこはまシニアボランティアポイントカード登録研修会	65歳以上の横浜市民を対象に開催。高齢者の社会参加推進、ケアプラザにおけるボランティア発掘を目的とした。 ①よこはまシニアボランティアポイント事業の説明、②ボランティア活動の基礎知識、③ケアプラザにてどんなボランティア活動をすることができるか。 以上3つを説明。参加者数が20名を超えたため、振興会の方にお越しいただきカードの当日発行が可能となった。	2/22 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
出張のんびりんこ 《中スポ&新山下CP》お出かけツアー Vol.2	のんびりんこ利用者（関内地域など）が中スポーツセンター、新山下地域ケアプラザを訪れ、自ら利用するきっかけを作ることと、区内の子育て支援機能のある施設との連携を深め、各地域、組織の取組やニーズをとらえることが目的。中スポーツセンターにて、施設見学と親子ふれあい体操等のプログラム体験を行ない、新山下地域ケアプラザにて子育てサロンの体験と体力測定を行った。	10/28 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
福祉体験学習	地域住民を対象に、障害者・高齢者に対する理解を深めるとともに、地域の福祉について理解を深め、地域の一員として生きる姿勢を育む。 障害者・高齢者に対する理解を深めるとともに地域の福祉について理解を深め、地域の一員として生きる姿勢を育むことを目的とするため、ケアプラザ機能の説明や通所介護での実習体験を行った。	5/8、2/1、2/2 (計3回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
打楽器コンサート	シーンごとに合わせた楽曲を生音楽で聴き子供たちの想像力をかきたてる。また、打楽器で効果的に自然を表現、演奏家と合奏し、音楽と言葉の世界を楽しんでもらった。 親子で小物楽器を作るワークショップと、打楽器コンサートを行ない、最後に大型打楽器を実際に弾き触れ合える時間を設けた。五感の刺激にもつながった。	1/26 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボラ発掘！花植イベント	花植えを通じた地域住民の交流の機会とし、新規ボランティアの登録にもつなげた。 地域から参加者を募り、園芸ボランティアの方に先導していただき、プランターに花の植え付けをし、最後に交流会も行った。	11/14 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボラたま！ 障害児余暇支援事業ボランティア講座	障害児余暇支援事業の担い手の発掘、障害に関する普及啓発が目的。 当事者の親の会から講師を招き、知的障害の疑似体験を行った。また、グループワークを通じて障害児への接し方や理解を深めてもらった。昨年度の余暇支援の様子をスライドで示すことでボランティアのイメージを明確に伝えた。	7/1 (計1回)

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
子育てサポートセンター入会説明会	安心して子育てができるよう、地域ぐるみでの子育て支援や、仕事と育児を両立できる環境を作ることを目的とした会員制の有償のささえあい活動。地域の中で子どもを預けたり、預かったりすることで人と人のつながりを広げ、地域ぐるみでの子育て支援を目指している。	9/22 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
認知症キッズサポーター養成講座	認知症の普及啓発を目的とする。児童向けに電子紙芝居、クイズ、ゲームなどを織り交ぜたプログラムを地域のキャラバンメイト4名の協力の下、実施。	10/11 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
高齢者疑似体験	福祉教育の一環として高齢者疑似体験を行い、地域住民へ保健福祉事業を啓発する。中スポーツセンターで開催するスポーツ・レクリエーションフェスティバル2017内での事業。高齢者疑似体験キットを使用し体験していただいた。	10/22 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
夏休み余暇支援事業 ホップ・ステップなつやすみ	長期休暇の障害児の余暇支援、養育者のレスパイトを目的とする。また、地域住民の障害者理解や、障害のある子どもたちの地域生活を支援するサポーターを増やす。ケアプラザにて障害児（中区内の個別支援級に通学中の児童）を対象にダンスや体操のレクリエーションプログラムを実施した。また、その間養育者に対してはレスパイトの効果を狙った。	8/7 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
親子で学べる！ 楽しく学べる！ 歯磨き講座	未就学児とその親を対象に、月齢に応じた教材を用いながら、楽しく歯の大切さについて学び、むし歯予防のポイント、歯磨きのポイントを教わる機会とした。講師は、横浜山手キッズデンタルパークの歯科衛生士と歯科医師。むし歯予防や仕上げみがきの方法について講義、その後お子様一人一人の磨き方チェックを行なった。	12/8 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	認知症に対する知識の普及啓発を行い、地域全体で認知症高齢者を見守っていく地域づくりを目的とする。隣接したスポーツセンターにて実施。実際にあった事例を事前にヒアリングし、それに沿った内容で実施した。	9/25 (計1回)

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
民生委員・ケアマネジャー交流会	第2地区、第4地区北部担当の民生委員とケアマネジャー、区、区社協、ケアプラザ間のお互いの役割の理解、親睦を深めることで利用者支援や地域づくりをするための連携をしやすいとする。お互いの役割紹介や配食弁当の試食会、地域資源の情報交換などを行った。	9/20、10/26、2/6 (計3回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
サロンしんやま	地域住民が気軽に集える場の提供。外出のきっかけ、つながりづくり。多世代交流やボランティア活動の場としての機能も期待する。 多目的ホールを開放し、お茶を飲みながらお互いに交流を図れるようにする。各回、担当ごとのサブイベントを開催。	10/24、11/28、 12/26、1/23、 2/24、3/27 (計6回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
おしえてドクター	フレイルや糖尿病といった関心の高いテーマについて、施設協力医の稲村先生を講師として招き、地域住民を対象とした健康講座を開催した。	5/27、11/25 (計2回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
わくわく老後介護相続	地域住民を対象として、司法書士による遺言・相続・任意後見人など事例を用いた講義を行い、権利擁護普及啓発を行った。講義後に実際に任意後見制度の利用につながった参加者もあり、制度の周知について効果があった。	5/20 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
成年後見制度ミニ講座	地域住民を対象として、成年後見制度の利用方法やあんしんセンターについて講義を行い、質疑応答を行った。	4/18 (計1回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
精神保健福祉講座	地域の事業所の方を対象に、中区生活支援センターの職員から施設の概要に関する講義と、グループワークによる精神障害者の支援に関する意見交換、連携のための顔の見える関係づくりを行った。	10/23 (計1回)

平成29年度 自主事業収支報告書

施設名 新山下地域ケアプラザ

事業名	①主な対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
親子のフリースペース おひさま	乳幼児・養育者	12,292	地活	12,292	0	0	0	0	12,292
	690名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
フローリス	ボランティア	21,071	地活	21,071	0	0	0	0	21,071
	237名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
ボランティア交流会	ボランティア	14,196	地活	14,196	0	0	0	0	14,196
	21名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
こだわり味噌作り	地域住民	122,956	地活	23,956	99,000	0	5,000	117,200	756
	91名		包括	0	0	0	0	0	0
	1,500円		生活	0	0	0	0	0	0
よこはまシニアボランティア ポイントカード登録説明会	65歳以上の横浜市民	0	地活	0	0	0	0	0	0
	25名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
出張のんびりんこ	子ども・養育者	1,120	地活	1,120	0	0	0	0	1,120
	25名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
福祉体験学習	中学生・高校生	0	地活	0	0	0	0	0	0
	10名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
打楽器コンサート	乳幼児・養育者	11,200	地活	11,200	0	0	8,000	3,200	0
	61名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
ボラ発掘！花植えイベント	地域住民	6,321	地活	6,321	0	0	0	6,321	0
	14名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
ボラたま！障害児余暇 支援事業ボランティア講座	地域住民	2,500	地活	2,500	0	0	2,500	0	0
	10名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
子育てサポートセンター 入会説明会	養育者	0	地活	0	0	0	0	0	0
	9名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
認知症キッズサポーター 養成講座	小学生	0	地活	0	0	0	0	0	0
	42名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
高齢者疑似体験	地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	0
	18名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
夏休み余暇支援事業 ホップ・ステップなつやす み	障害児	28,936	地活	26,436	2,500	0	16,000	12,936	0
	13名		包括	0	0	0	0	0	0
	500円		生活	0	0	0	0	0	0
親子で学べる！楽しく学 べる！歯磨き講座	乳幼児・養育者	0	地活	0	0	0	0	0	0
	13名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
認知症サポーター養成 講座	地域住民、企業	0	地活	0	0	0	0	0	0
	13名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円		生活	0	0	0	0	0	0
民生委員・ケアマネ ジャー交流会	民生委員、ケアマネジャー	27,184	地活	0	0	0	0	0	0
	82名		包括	6,103	0	0	0	0	6,103
	0円		生活	21,081	0	0	0	8,727	12,354

平成29年度 自主事業収支報告書

サロンしんやま (地域交流)	地域住民		地活	25385	4200	0	0	29,585	0
	41名		包括	0	0	0	0	0	0
	100円	29,585	生活	0	0	0	0	0	0
サロンしんやま(包括)	地域住民		地活	0	0	0	0	0	
	36名		包括	2902	3600	0	0	4828	1674
	100円	6502	生活	0	0	0	0	0	
サロンしんやま (生活支援)	地域住民		地活	0	0	0	0	0	0
	36名		包括	0	0	0	0	0	0
	100円	10,713	生活	7,113	3,600	0	0	10,713	0
おしえてドクター	地域住民		地活	0	0	0	0	0	0
	34名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円	0	生活	0	0	0	0	0	0
わくわく老後 介護相続	地域住民		地活	0	0	0	0	0	0
	15名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円	0	生活	0	0	0	0	0	0
成年後見制度出張講座	地域住民		地活	0	0	0	0	0	0
	19名		包括	0	0	0	0	0	0
	0円	0	生活	0	0	0	0	0	0
精神保健福祉講座	事業者		地活	0	0	0	0	0	0
	21名		包括	3412	0	0	0	3412	0
	3412円	3412	生活	0	0	0	0	0	0

事業ごとに別紙に記載してください。